

初めての日本語ボランティア、頑張っています

村上敬一（日本語教室部会）

日本語教室部会では、日本で生活している外国人の方に、日本での生活に困らないように、ボランティアで日本語教室を開催しています。コロナ禍に対応しながら、昨年4月から対面式の日本語教室も再開しました。ボラ

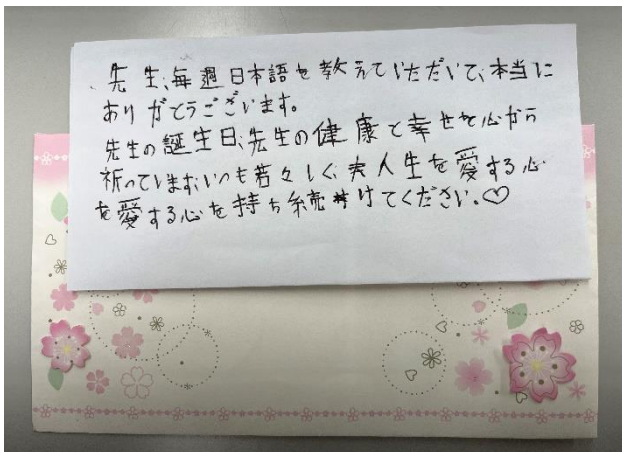
ンティア養成講座でも昨年は17名の受講生が講座を修了し、今年から活動を始め、試行錯誤しながらも頑張っています。今回は、2組のボランティアと学習者の事例をご紹介します。

1組目は、今年の2月から学習を開始した、ベトナムから来たチャウ・ティ・ホアン・アオンさんとボランティアの永坂和子さんです。チャウさんは、子どもが小学校に入学したのを機に、NIAの日本語教室に申込みました。永坂さんは、楽しく日本語を教えてくれるだけでなく、学校での対応の仕方等も親身に教えてくれ、とても助かっているそうです。先

日、永坂さんの誕生日に、感謝の気持ちと自分の日本語の上達を見せようと、チャウさんはメッセージを書いて渡しました。永坂さんは、日本語テキストにとらわれず、チャウさんの困り事に対応していくやり方を取ってきましたが、こういう形で感謝の気持ちを伝えられると、本当にやってきてよかったと、涙が出るくらいうれしかったそうです。チャウさんが栽培したベトナム野菜をもらって、永坂さんが料理したものを紹介するなど、日本語学習支援だけでなく、草の根異文化交流もしています。



チャウさん(右)と永坂さん



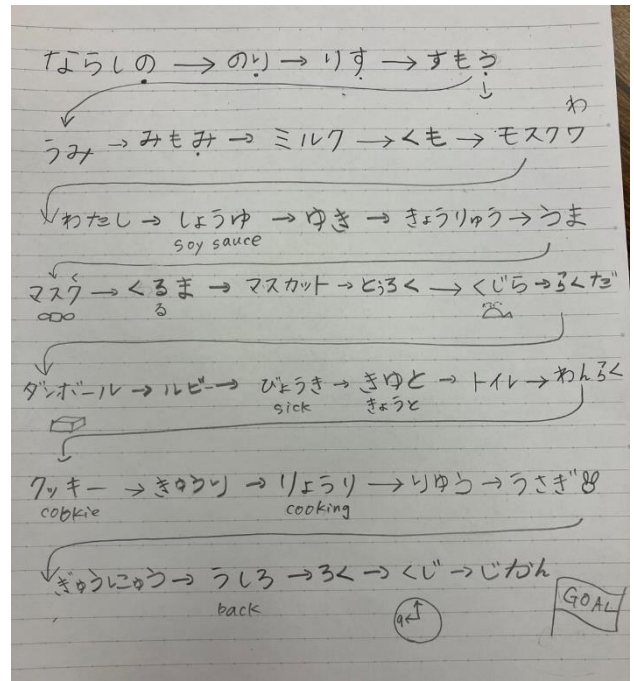
チャウさんのメッセージ

2組目は、今年の4月から学習を開始した、スリランカから来たバラスーリア・ドナ・ウロシニ・マユミさんとボランティアの網屋良美さんです。マユミさんは、今年の1月に来日したばかりで、先ず日常の会話ができるようになりたいと思い、日本語教室に申込みました。マユミさんは、文字を書くことが得意で、3ヵ月でひらがな、カタカナを完璧に書けるようになりました。網屋さんと日本語の



右から網屋さん、マユミさん、夫のヌワンタカさん

「しりとり」を紙に書いていった時も、どちらが日本人が書いた字かわからないくらいでした。網屋さんは、マユミさんの日本語が上達していくのを見て、とてもうれしく思う一方、知らない人と話すのを恥ずかしがるシャイな面を乗り越えて、学んだ日本語を使って、いろいろな人と話をして欲しいとも思っています。日本人の前で恥ずかしがらずに話せるのは網屋さんだけだと言うマユミさんのコメントを、網屋さんは嬉しいような、困ったような複雑な表情で聞いていました。



マユミさんと網屋さんの「しりとり」